

6月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- モハメッド6世国王のコートジボワール訪問(5月30日～6月5日)
- モハメッド6世国王のガボン訪問(5日～8日)
- サルコジ前仏大統領のモロッコ訪問(21～22日)

< 内政・政局 >

1 ジハーディスト・リクルート細胞の解体(カサブランカ)

- (1)内務省は3日、声明により、中央司法捜査局(BCIJ)が「イスラム国」に関係のあるテロ細胞メンバーと疑われる9名を、カサブランカ、ウェド・ゼム、ブジュニバ、フキ・ベンサレ、ウェド・サイドで拘束したと発表した。
- (2)9名は「イスラム国」の複数の幹部と接触しモロッコ人志願者をシリア、イラクに送りこもうと企てており、そのうちの1名は「イラクのアルカイダ」と関連するテロリスト・ネットワークに所属し、過去に受刑していた。
- (3)逮捕者の1人が出たカサブランカのシディ・ムーメン地区は2003年5月16日のカサブランカにおけるテロ(死者33名)を起こした自爆テロリスト12名の出身地域であり、内務省は、このような地域で再びテロ細胞の摘発があったことは、テロ組織が継続的にモロッコを拠点としようとしていることを示すものであるとしている。

2 観光客を狙ったテロ細胞の解体

- (1)内務省は11日、声明により、中央司法捜査局(BCIJ)が、モロッコを訪れる観光客の誘拐および殺害を計画していたテロ細胞メンバー7名をベルカン(オリエンタル地域圏の都市)で逮捕したと発表した。
- (2)逮捕された7名は「イスラム国」への忠誠を誓い、モロッコの海水浴場を頻繁に訪れる観光客およびイスラムの教えに敵対的な人物を標的として、誘拐および殺害の計画を立てていた。
- (3)テロ細胞のメンバーは、オリエンタル地域圏(モロッコ東部のアルジェリアとの隣接地域)

において治安関係者を襲撃することでその武器を強奪し、軍関係要人の殺害に利用することを目的として、ベルカン付近の山岳地帯で準軍事的な訓練に参加していた。

3 シリア渡航資金支援のための経済犯罪

(1)内務省は声明により、中央司法捜査局(BCIJ)が15日、食品の賞味期限の表示を貼り替え不正な利益を得ようとしていた、食品卸売会社を所有する男性1名をフェズで逮捕した、と発表した。

(2)容疑者は、大量の賞味期限切れの食料品(なつめやしの実、ジャム、蜂蜜等)を安価で購入し、期限表示を貼り替え、需要が増加するラマダン時期に販売して利益を得る目的で倉庫に集積していたもので、消費者の健康にとって重大な危険となる不正である。

(3)容疑者の男性は過激な思想に染まっており、モロッコ人女性1人とその子供達がシリア・イラクのテロ組織に参加する目的でトルコに渡航するための資金を援助していたことが、同時に明らかになった。

(4)同じ男性が所有する同様の消費期限切れ食品の備蓄倉庫はウジュダおよびワルザザート(マラケシュ南東方約120km)でも見つかリ、渡航資金支援対象には他にも複数のモロッコ市民がいたことが分かった。

(5)各地方の食品品質管理委員会の調査によって、この男性が経営する会社(在フェズ)の倉庫はフェズ、タンジェ、ウジュタ、ワルザザートの他に、マラケシュ、アル・ホセイマ(地中海沿岸)でも発見された。これらの倉庫にも同様に賞味期限切れや、期限表示を貼り替えて流通させる寸前の食品が保管されていた。

(6)押収された食品は130トンに上り、その内容はナツメ椰子の実、パスタ、ジュース、チョコレート、トマト缶詰、ミネラルウォーター、トウモロコシ粉などである。

4 ハッサド内務大臣インタビュー(ジュンヌ・アフリック誌)

(1)ジュンヌ・アフリック誌は、6月15日にラバトでモハメッド・ハッサド内務大臣へのインタビューを行った(同誌2841号(6/21-27)掲載)。同誌によると、同大臣がメディアで発言するのは、仏外務省がモロッコに関する渡航情報を「強い警戒が必要な地域」に変更したことに抗議した(2014年10月)のを除くと例がない。

(2)インタビューの中で同内相は、モハメッド6世国王のサブサハラ歴訪の諸側面を説明し、西サハラ問題では、同地域の開発続行の意思とアルジェリアへの反論を表明したほか、テロとの闘いの現状について説明した。

(3)2013年以来、いくつのジハディスト細胞を解体したかとの問いに対して、同内相は、全部で27、うち2014年には14、2015年1月~5月には8つのテロ細胞を解体した、と答えた。

(4)また、イラク・シリアでISILに戦闘員として加わっているモロッコ人は約1350人、うち220人は元受刑者であると述べるとともに、モロッコ人のISIL加入者のうち、286人が戦闘地域で死亡し、156人がモロッコに帰国した、と述べた。

5 給与所得者代議員等選挙結果発表

(1) 25日の閣議でセディキ雇用・社会問題大臣とムブディ公職・行政近代化担当特命大臣は、6月3日から10日にかけて行われた、給与所得者代議員(民間)と同数委員会(commissions paritaires)代議員(公務員)選挙の労働組合別の結果を報告した。なお投票率は60%を越えた。

(2) 民間・公務員合計(34,946名)での選挙結果は以下のとおり。

・所属労組なし 17,299名(49.79%)

・UMT 6,175名(17.66%)

・CDT 3,240名(9.27%)

・UGTM 2,644名(7.57%)

・UNTM 2,572名(7.36%)

・FDT 1,339名(3.83%)

・ODT 644名(1.84%)

・その他労組 933名(2.67%)

(3) 労組に所属しない代議員が半数近くを占めたことは、前回選挙(2009年)に引き続き、労働者の労組離れを示している。

< 外交・国際関係 >

6 モハメッド6世国王のコートジボワール訪問

(1) 5月30日から6月5日、モハメッド6世国王はコートジボワールを友好実務訪問した。

(2) 同行閣僚

外務・協力大臣、経済・財政大臣、設備・運輸・ロジスティック大臣、商工業・投資・デジタル経済大臣、保健大臣、エネルギー・鉱山・水利・環境大臣、観光大臣、手工芸・社会連帯経済大臣

(3) 2日、モハメッド6世国王はウワタラ大統領とアビジャンの大統領府で会談した。

会談後、両国首脳の臨席のもとに、以下6件の協力協定等の署名式が行われた。

コートジボワール銀行会社(SIB)株式のコートジボワール政府保有分を Attijariwafa 銀行に譲渡するための取決

グラン・ラウ市水揚浜整備に関する取決(両国政府、モハメッド6世持続可能開発財団、Attijariwafa 銀行)

国際地中海ラジオ社(Medi 1)のコートジボワールにおける放送許可に関する取決

カサブランカ・ファイナンス・シティ(CFC)とコートジボワール投資促進センターとの合意議定書

コートジボワール村落開発支援庁とモロッコ・リン鉱石公社(OCP)との合意議定書

コートジボワール・コーヒー・カカオ評議会と OCP との合意議定書

(4) 署名式に続いて、モロッコ・コートジボワール経済促進グループ共同議長(両国外相と両国経営者団体会長)と各委員会委員長が紹介された。同グループには、銀行・金融・保険、アグリビジネス・漁業、不動産、観光業、エネルギー・再生可能エネルギー、鉱山、インフラ、運輸・物流、工業・配送、デジタル経済、社会連帯経済・手工業、人材・職業訓練・起業の各委員会が設置される。

(5) 2日、アビジャンで、モハメッド6世国王はダンカン首相とともに、グラン・ラウ市水揚浜整備計画の起工式を行った。同計画は水揚浜整備および魚市場建物建設を含む。総工費2000万DHに対して、モハメッド6世持続可能開発財団が1300万DH、農業・海洋漁業省が700万DHを支援し、Attijariwafa銀行が実施監理に当たる。

(6) 2日、アビジャン市内ヨブゴン地区で、モハメッド6世国王はダンカン首相とともに、建築業・観光業向け職業訓練施設建設の起工式を行った。同施設は2016年10月完成予定で、建築・公共事業部門で600人、ホテル・飲食業部門で400人の研修員を受け入れる。施設建設の実施監理にはモハメッド6世持続可能開発財団が当たり、職業訓練・就業促進公社(OFPPT)が技術協力を行う。

(7) 2日、アビジャン市内ヨブゴン大学病院で、エイズ対策医薬品2トンの引渡を行った。

(8) 3日、モハメッド6世国王とウワタラ大統領は、アビジャン市内ココディ湾再生計画発表式典に出席した。同式典では同計画の技術協力および財政管理に関する4つの協定・合意書・契約が署名された。

(9) 4日、モハメッド6世国王はギヨーム・ソロ国民議会議長と会談した。

(10) 5日、モハメッド6世国王はウワタラ大統領とともにアビジャン市内のモスクで金曜礼拝に参加した。礼拝後、国王は1万冊のコーランをウワタラ大統領に贈呈した。

(11) 訪問後発出された共同声明で両国首脳は、両国それぞれの国内政策努力および両国間の友好協力関係を評価するとともに、両首脳が構想する「北西アフリカ空間」の具体化に向けて努力することを改めて表明した。ウワタラ大統領は西アフリカ諸国経済共同体(CEDEAO)とモロッコとのパートナーシップ協定の早期実現を支持した。西サハラ問題についてウワタラ大統領は、モロッコの主権と領土一体性の下における自治権付与提案に対する支持を再確認した。

(12) モハメッド6世国王のコートジボワール訪問は2013年3月、2014年2月に続いて3回目。

7 モハメッド6世国王のガボン訪問

(1) 5日から12日、モハメッド6世国王はガボンを友好実務訪問した。

(2) 同行閣僚

外務・協力大臣、経済・財政大臣、保健大臣、手工芸・連帯経済大臣。

(3) 8日、モハメッド6世国王はボンゴ大統領とリーブルビルの大統領府で会談した。

会談後、両首脳は、人間開発に関するモロッコ・ガボン協力発表式典を主催した。特にモロッコの社会経済政策・貧困対策である「人間開発国家イニシアティブ」(INDH)と、「ガボン人的投資戦略」(SIHG)との間の経験共有が焦点となった。

同式典後、両国首脳臨席の下に4件の協力協定が署名された。

自閉症児童とダウン症児童の養護・社会参加に関する協定

人工透析センター設置に関する協定(ガボン側が建物を建設し、モロッコ側が医療機材設置と医療スタッフの人材育成(研修)を受け持つ)

手工芸・社会連帯経済に関する合意覚書

職業訓練に関する枠組協定(モロッコの職業訓練・就業促進公社(OFPPT)と国際協力庁(AMCI)がガボン労働・雇用・職業訓練省に協力)

(4) 12日、両国首脳はリーブルビルで、運輸・物流職業訓練センター建設の起工式を主催した。同センターの建設費は570万ディルハムで、モハメッド6世持続可能開発財団が案件実施を担当する。

(5) 12日、モハメッド6世国王はリーブルビルの軍医学校で14トンの医薬品・医療機材を供与した。

(6) 訪問後発出された共同声明で両首脳は、持続的人間的開発についてヴィジョンを共有すること、および、今次訪問の成果の焦点は人間的開発にあったことを表明した。これは南南協力の枠組での経験共有につながるもので、ポスト2015年の開発目標が国連で議論されているタイミングでは一層重要であるとしている。西サハラ問題についてボンゴ大統領は、(西)サハラをモロッコ領の不可欠な部分であるとする従来からの立場を再確認した。

両首脳はアフリカにおけるテロの脅威について強い懸念を示すとともに、あらゆるテロを糾弾した。中央アフリカ問題について、ボンゴ大統領は、モロッコによる中央アフリカの和平実現のための関与を賞賛するとともに、最近の進展を歓迎した。

8 サルコジ前仏大統領のモロッコ訪問

(1) サルコジ前大統領(共和主義者党党首)は21~22日の2日間、モロッコを訪問した。

(2) 21日、サルコジ氏はカサブランカでの党集会で、モハメッド6世国王の即位以来の統治を讃えつつ、モロッコをアラブ世界における鎖の強い環にたとえてその安定を賞賛した。サルコジ氏は、モハメッド6世国王の統治を、モロッコのアイデンティティを保ちながら近代化を進めているとした。

(3) 22日にはサルコジ氏は、ベンキラン首相、メズアール外務・協力大臣、ハッサド内務大臣、ラミッド法務大臣と会談した。ベンキラン首相との会談でサルコジ氏は、特別な両国関係の重要性を強調した。

(4) 22日午後、サルコジ氏はラバト王宮でモハメッド6世国王に謁見した。クリスチャン・カンボン上院仏・モ友好議連会長、ラシダ・ダティ欧州議員、リュック・シャテル国民議会仏・モ友好議

連会長等が同席した。

(5)サルコジ氏は仏・モ間にあった外交的不仲が終結したことを歓迎し、その間に起こった不器用な出来事にはコメントしないとしつつ、仏・モ関係は政権交代に左右されてはならないと述べた。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
5月30日～ 6月5日	コートジボワール	モハメッド6世国王	友好実務訪問
6月2日	スーダン	タルビ・アラム衆議院議長	バシール大統領就任式出席
6月5-12日	ガボン	モハメッド6世国王	友好実務訪問
6月5日	スペイン	ベンキラン首相、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣、ラミッド、アマラ、ハッダド、ラバハ、ハッカウイ、アフィラル、ドライス	フェリペ6世国王謁見、第11回スペイン・モロッコ・ハイレベル会合(ラホイ首相他)
6月9日	ドイツ	タルビ・アラム衆議院議長、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	リビア両議会派間交渉(P5+5との会合)
6月11日	チュニジア	ベンキラン首相、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣、他の閣僚	第18回モロッコ・チュニジア合同委員会
6月15日	フランス	ベンキラン首相	グリアOECD事務局長と会談、OECDカントリー・プログラム署名
6月20日	エジプト	メズアール外務・協力大臣	パレスティナ問題に関するアラブ閣僚委員会
6月24日	レバノン	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	EU近隣国政策再検討閣僚会議
6月24日	ブラジル	エル・ヤザミ国家人権評議会議長	第2回世界人権フォーラム(2014年モロッコ開催)の評価

< 外国要人のモロッコ訪問 >

日付	国	氏名・肩書き	目的
6月1日	国際移住機関 (IMO)	スウィング事務局長	ベンキラン首相、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣、ドライス内務担当大臣と会談
6月1日	フランス	ユロ地球環境保護担当大統領特使	ベンキラン首相と会談、気候変動対策シンポジウム出席
6月8日	イタリア	ピステッリ外務副大臣	ベンキラン首相表敬
6月21-22日	フランス	サルコジ前大統領(共和主義者党党首)	党集会出席、モハメッド6世国王、ベンキラン首相、メズアール外務・協力大臣、ハッサド内務大臣、ラミッド法務大臣と会談
6月29日～ 7月1日	ケニア	レントイマガ・ケニア議会議行政・治安委員会委員	タルビ・アラミ衆議院議長、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談

(了)